

第38回法人会全国大会千葉大会の報告

令和4年10月13日（木）第38回法人会全国大会千葉大会が千葉市幕張メッセ幕張イベントホールで開催され、約1,700名が参加しました。

第1部では「女性がテレビで働くということ」と題してキャスター・ジャーナリストの安藤優子氏から記念講演がありました。同氏からは、日本国内だけでなく世界各国で取材活動をした時のエピソードや失敗談、女性としての視点での報道やインタビューについて、自らの経験を基に話されました。インタビューの相手から様々な話を聞き出すために最も大事なことは、相手の話をよく聞くこととのことでした。

第2部の大会式典では、一般社団法人千葉県法人会連合会の花島恭一会長の開会の辞、主催者を代表しての小林栄三全法連会長挨拶、阪田渉国税庁長官、熊谷俊人千葉県知事ほか来賓の祝辞、会員増強表彰等の表彰式に続いて飯野光彦税制委員長から令和5年度税制改正に関する提言の要旨が発表されました。

提言要旨は、財政健全化が国家的課題であることを政治家も国民も再認識し不退転の決意で臨む必要があること。

社会保障制度においては、現状の「中福祉・低負担」という不均衡を「中福祉・中負担」という正常な姿に改革するには、適正な「負担」を確保するとともに給付を「重点化・効率化」により可能な限り抑制するしか方法はないこと。

消費税については、かねてから税率10%程度までは単一税率が望ましく、低所得者対策は「簡素な給付措置」の見直しで対応するのが適当であることを指摘してきた。軽減税率制度導入後は国民や事業者への影響、低所得者対策の効果等を検証し、問題があれば同制度の是非を含めて見直しが必要であること。

中小企業の技術革新など経済活性化に資する税制措置の拡充を図ること。

中小企業にとって円滑な事業承継に資するため事業用資産を一般資産と切り離した本格的な事業承継税制を創設する必要があること等が柱となっています。

続いて、今年の全国青年の集いにおける発表で最優秀賞を受賞した佐賀法人会青年部会による租税教育活動の報告があり、最後は野坂文雄筆頭副会長の税制改正に関する提言の実現を強く求める大会宣言で締めくくられました。

第3部の懇親会では、3年ぶりの現地開催となったものの、感染防止の観点から全席指定とし、従来の立食形式から着座形式に変更となりましたが、郷土料理や美味しい地酒が振舞われ、大いに舌鼓を打ちました。来年の群馬大会での再会を約して散会しました。

以上